

アメリカスポーツの発展と文化的背景との関連性の研究

A study of relationship between development of American sports and cultural history

1K05A235

指導教員 主査 石井昌幸先生

横山 智紀

副査 寒川恒夫先生

本研究では、アメリカに焦点を当て、どのようにスポーツの位置づけが変化していったのかを追求している。その中で、時代独自の文化的背景と関連付けることによってアメリカスポーツを深く理解しようとするものである。1492年にコロンブスがアメリカを発見した時代から、幾多の変遷を経たアメリカスポーツを時代ごとに掘り下げていく。

本研究は、序論、3つの章、まとめという構成によって書かれている。序論ではこの研究に至った経緯、研究の全体像、どのような構成になっているのかを述べる。また、アメリカスポーツ史を検討するにあたっての簡単な問題意識を述べている。その後の3つの章では、アメリカの歴史の中でスポーツがどのように発展してきたのかを文化的な背景と絡めることによって述べている。

第一章は、伝統的な文化としてのスポーツの形成期とした。具体的には、植民地時代から南北戦争に至るまでの1860年以前を対象にしている。まず、はじめにコロンブスによる新大陸の発見以来、多くの植民者を受け入れてきたアメリカが、さまざまな文化を持ち合わせた民族が存在する中で、スポーツはどのような位置づけであったのかを述べる。この頃、アメリカは未だ、地域的、地理的差異が大きく、いまだに一つの国としてスポーツを捉えることは困難であった。それが、独立戦争を経過して独立国家となることで、徐々にアメリカ人たる国民的自覚が萌芽していき、そこに新たなスポーツ展

開を垣間見ることができる。しかし、この頃のスポーツはアメリカが生んだものでは無かった。植民地時代に有力であったイギリスに対する憧れがアメリカ人に潜在していたため、スポーツもイギリスに対してかなり追従的であった事実を認めることができる。

第二章は、近代的な文化としてのスポーツの展開期とした。具体的には、南北戦争期から19世紀末までを対象にしている。奴隷問題を中心に、政治・経済的利害対立によって1861年、南北戦争が勃発した。戦争によってスポーツ発展は妨げられたのだが、戦争を経緯してアメリカが統一された独立国家となることで、その後のスポーツ繁栄のきっかけとなった。そして、独立した国家になったことがアメリカを一つにさせ、イギリスの水準を抜こうとする意欲が芽生え、アメリカはイギリス追従から脱し、自らの判断によってスポーツを選択し、独自のスポーツを生みだしていくのである。アマチュアリズムが生まれたのもこの時期である。それまでは極めて賭博的であったスポーツがこの頃になって、アマチュアリズムというスポーツそれ自体を楽しむ態度が生まれた。アマチュアリズムの生起はプロスポーツの存在を鮮明に浮かび上がらせたのも事実である。そして、また「賭けるスポーツ」から「見るスポーツ」への発展が、プロスポーツ選手の売り物としての価値を高め、それがスポーツ技術の向上にも繋がった。

第三章は、大衆文化的状況へのスポーツ転換期とした。具体的には、20世紀以降の時代を

対象としている。1920年代のスポーツの黄金期といわれるスター選手が続出した時代はアメリカ社会に旋風を巻き起こし、スポーツはもはや無視することのできない社会的なものになった。第一次世界大戦、世界恐慌を経過して、スポーツはこれらの戦争・不況にどのような影響を受け、またそれらをどのように対処していったのかを述べていく。

最後に、まとめの部分では、三章にわたって述べられてきた、アメリカ文化とアメリカスポーツとの関連性を述べている。